

第11回図書館利用教育実践セミナー

情報の批判的読解をどう教えるか 司書に求められる情報評価能力

2008年3月16日

有吉末充

京都学園大学 人間文化学部

今回のおはなしのポイント

- 情報を評価する力が必要になっている
- 利用教育に批判的読解力の育成の視点を
- 司書に必要な3つのCと3つのつ



物語

スタッフ

キャスト

放送予定

リン

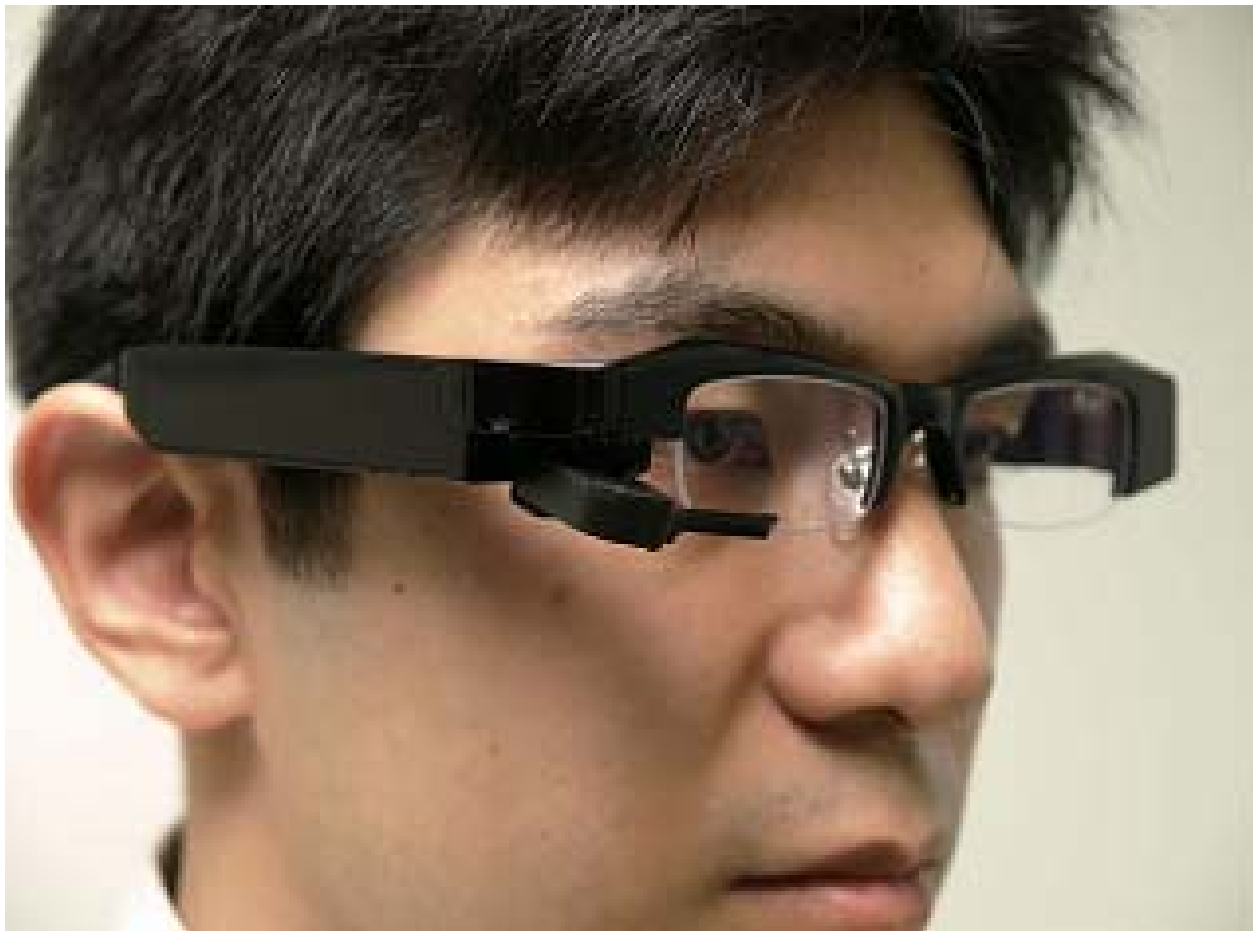
電脳コイル

COIL A CIRCLE OF CHILDREN

© 磯光雄 / 徳間書店・電脳コイル製作

教育テレビ 毎週土曜日午後6:30~放送中

ウェアラブル・ディスプレイ



バーチャル・キーボード



データベース化する世界

- 情報はネットワーク上に遍在する
- 欲しいときにアクセスして情報を取りだす
ー探求型からコンビニ型へ
- 情報の**選択と評価**が重要性を増す

私達をとりまく情報の現状

メディアは本当に信頼できるか

テレビの信頼性

- 「テレビが伝えているから価値がある情報だ」という判断は正しいか？
- 『あるある大事典』の捏造事件で、視聴者の怒りが大きかったことは、逆に人々がいかにテレビを信頼しているかを伺わせた。



「番組担当者が作成したものだが、ねつ造ではない」

- 「TBSが12日夜に放送した番組で、2chにそっくりのデザインだが実在しない掲示板の映像が放映され、「ねつ造では」とネット上で“祭り”になった。TBSは、担当者が作成したものであることを認めた上で「ねつ造ではない」と釈明した。」

- ITmedia 2007年03月13日 21時29分
更新<http://www.itmedia.co.jp/>



テレビ放送の問題点

- **放送番組基準**
 - - 総務省による保護とコントロール
- **娯楽偏重** - 60パーセントが娯楽番組
- **企業ロジックの専横** - スポンサーの意向を強く反映
- **映像の真実性** - 横行する「やらせ」、映像は真実だと思
視聴者
- **7割の番組が低価格で下請けに外注**
 - - 無責任、社会的責任の無自覚

新聞は信頼できる？

- 「ごはん食べる子 元気っこ - 『いつも楽しい』パン派を上回る」
京都新聞2007年6月21日
- 「バランス朝食は早寝早起き・・・千葉大の調査」
読売新聞 2007年6月1日

マスメディアの限界

- 限られた時間の中での制作
- 利益第一主義(視聴率、販売部数)
- 情報源とのもたれあい
- 自主規制(とりあげられないテーマがある
スポンサー、系列、監督官庁等は批判され
れないetc.)

マスメディアの系列

- 朝日新聞ー テレビ朝日
- 読売新聞ー日本テレビー中央公論社
- 毎日新聞--- TBS
- 産経新聞ー フジテレビー扶桑社
- 日経新聞--- テレビ東京
- メディアミックスによる情報包囲が可能

メディアにとって情報は商品である

- メディアの上の情報は
- **選択**されている
- **編集**されている
- ときに情報は**捏造**される

ウェブ上の情報の問題点

- デマ情報
- Snowball the Monster Cat
- <http://www.museumofhoaxes.com/snowball.html>



玉石混淆の掲示板

一度リポートに同じ「百ノセぞ」...

2007/09/30 13:37 [6815797]

参考になりましたか？ はい 0人



スレ主 **cheeko**さん

買えますが、カスタマーサービスの対応にムカつき、もうソニー製品は絶対買いません！

2007/09/30 13:51 [6815834]

参考になりましたか？ はい 0人



pibappさん

どういう経緯で壊れたのか書いてないので分かりませんが、メーカー保証期間内でも有償修理になる壊れ方をしたのですか？

2007/09/30 13:58 [6815853]

参考になりましたか？ はい 0人



E=mc²さん  [未来ファンVAIOユ...](#)

この製品は発売から1年たっていないのですが、なぜ無料修理ではないのですか？

2007/09/30 14:00 [6815860]

参考になりましたか？ はい 0人



TOUDOUさん

ウェブ上の情報の問題点

- 1、誰のチェックも受けずに情報発信が可能
- 2、フロー情報で内容の保証ができない
- 3、匿名性
- 4、棲み分けのないバーチャル空間

書籍なら大丈夫？

- 「100匹目の猿」のエピソードは、ライアル・ワトソンの『生命潮流』の中で紹介され一時ブームとなった。
- しかしこのエピソードにはワトソンの創作だったことがわかり、後に自ら否定された。

ライアル・ワトソン・木幡和枝
『生命潮流：来たるべきものの
予感』工作舎 1981

誤りでも面白ければ商品価値がある

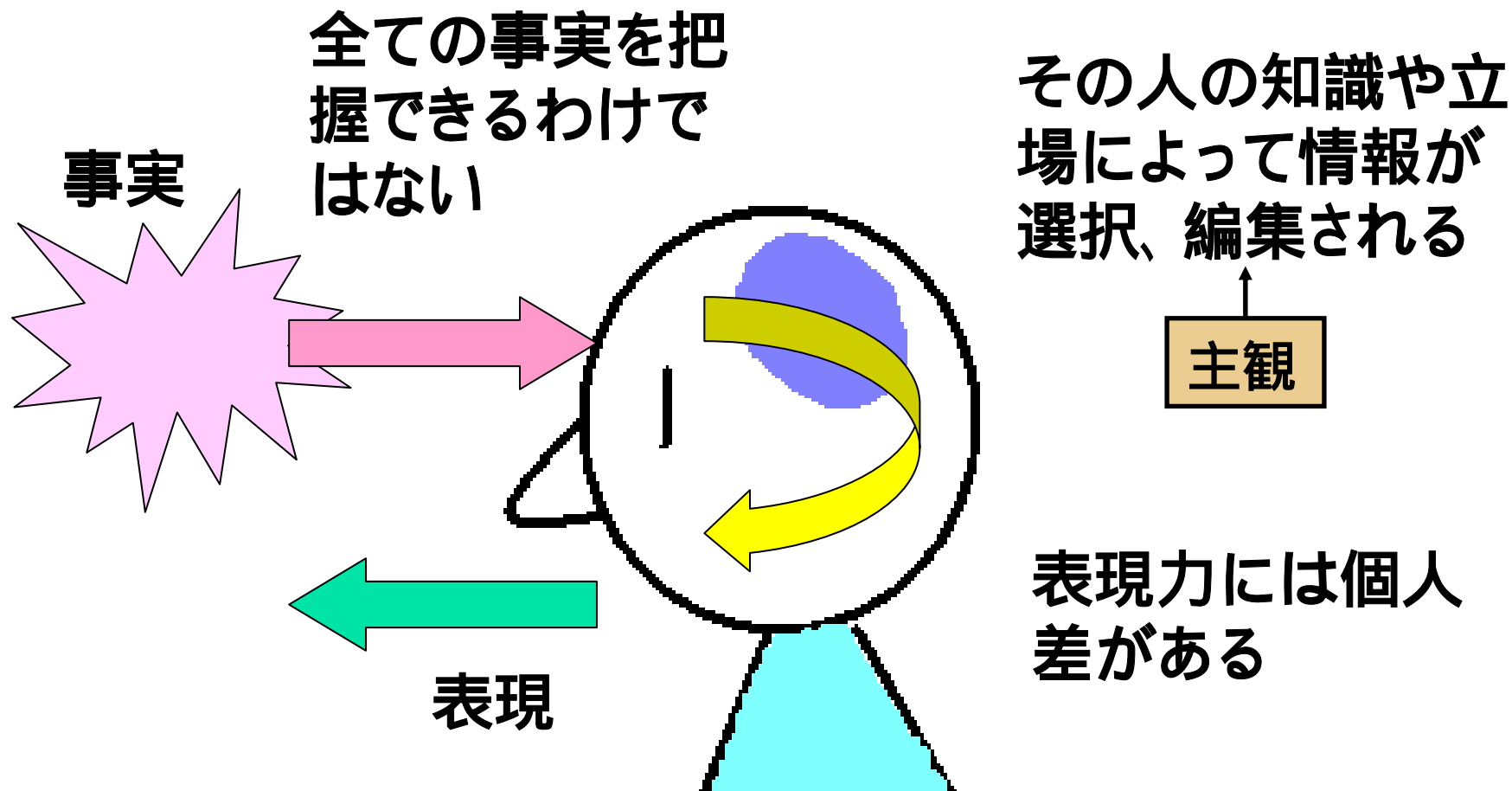
- しかし「百匹目の猿」を題材にした書籍は出版され続けている。

船井 幸雄『「百匹目の猿現象」を起こそう！ 思いをひろげ、未来をつくる』サンマーク出版 2006

書籍というメディアの問題点

- 委託販売制度
- 書店の在庫飽和、返品サイクルの短期化
- 出版種数の異常な増加
- 外注下請けによる安易な出版企画
- 良質の本が十分出回っているわけではない
- 書籍も商品(消耗品)である

すべての情報には バイアスがかかっている



評価を前提とした情報の活用

- 事実はあるが、メディアに取り上げられた時点で様々に加工されている
- なにが「正しい」かではなく、全てが
- 疑いするという**相対的**な視点が必要
- **思考停止状態**からの脱却
- **批判的読解力**の必要性

情報リテラシーと情報の評価

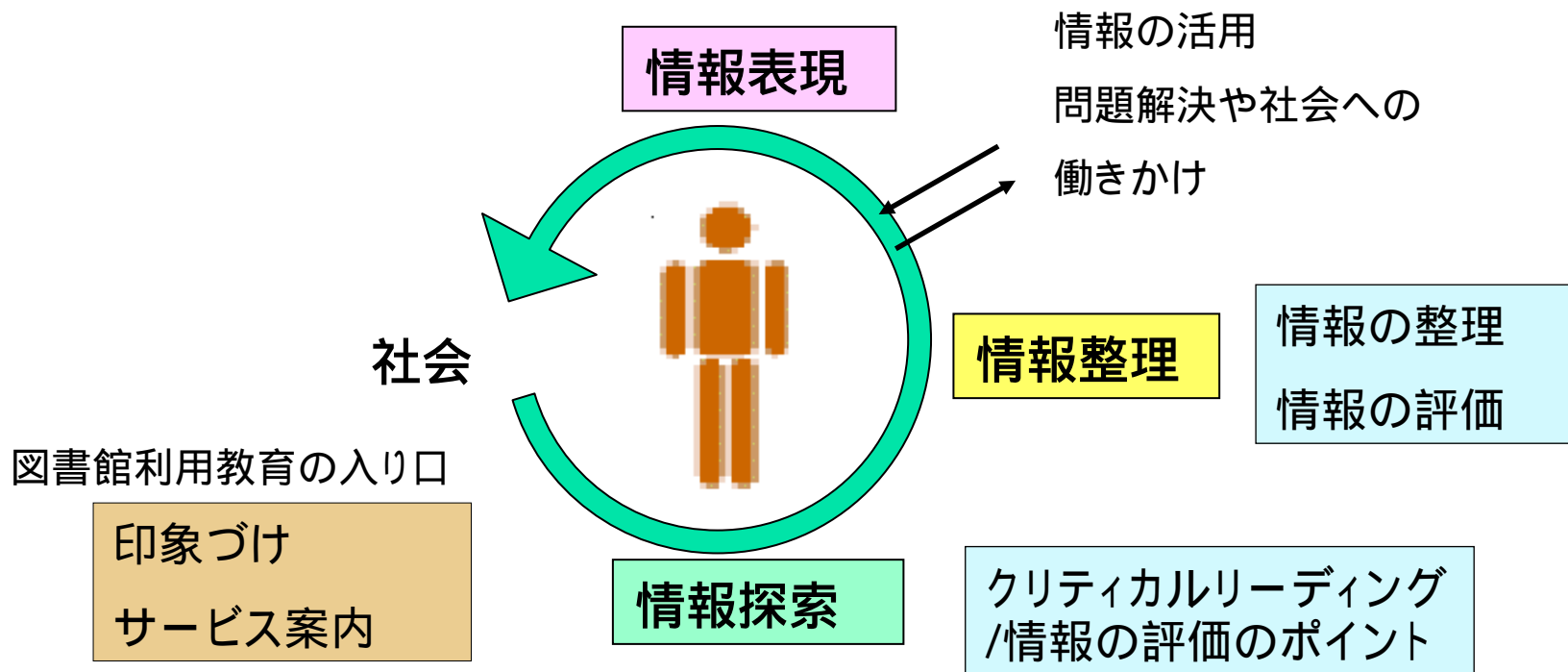
図書館利用教育と批判的読解力

日本図書館協会『図書館利用教育ガイドライン』 「目標と方法」(総合版)

- 5つの領域
- 領域1 印象づけ
- 領域2 サービス案内
- 領域3 情報探索法指導
- 領域4 情報整理法指導
- 領域5 情報表現法指導
- * 情報活用のステップに沿って
- 具体的に目標と方法を示した

『図書館利用教育ガイドライン』にみる 情報リテラシーのイメージ

- 情報を主体的に活用していく能力(情報を活用して課題を解決していく能力)



情報の活用・循環する情報のイメージ

『インフォメーションパワー』での位置づけ

- 情報リテラシーを身につけた人は
 - 1、情報に効率的かつ効果的にアクセスする
 - 2、情報を批判的かつ的確に**評価**する
 - 3、情報を正確かつ創造的に活用する
 - 4、自分の興味に関連させて情報を追求する
 - 5、書物やその他の情報の創造的な表現の真価を認める
 - 6、情報の探索と知識の生成がうまくいくよう努力する
 - 7、民主主義社会における情報の重要性を認識している
 - 8、情報と情報技術に対して倫理的行動を遵守する
 - 9、情報の探求と生成を行う個々のグループに効果的に参加する
- *(Information Power. AASL.1998.より)*

文科省の情報教育の目標

■ 情報活用の実践力

- 「必要な情報を主体的に収集、判断、表現・処理・創造し(中略)発信
伝達できる能力」

■ 情報の科学的理解

- 「自らの情報活用を評価・改善するための基礎的な理論や方法の理解

■ 情報社会に参画する態度

- 「情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響を理解し」
-
- 文部省調査研究協力者会議「体系的な情報教育の実戦に向けて」

図書館利用教育の実践

- ガイダンス
- ー印象づけ、利用案内
- 文献探索指導・データベース利用法指導
- ー情報探索法指導
- レポート作成法・プレゼンテーション実施法指導
- ー情報表現法指導

「情報の評価」はどうしよう？

図書館は評価とどう関わるか？

- 図書館は指導をしない？
- 指導は学校で
- 図書館は中立？
- 判断するのは利用者自身
- 図書館の資料は信頼できる
- 活字資料だから安全

- 図書館での情報リテラシー指導は文献探索法まででよい？

批判的読解をどう教えるか

批判的リテラシーの育成の方法

図書館の「情報リテラシー」

- スタンス：調査研究のためのリテラシー
- メディア：活字情報（文献）
- 方法：文献どうしの比較による有効性判断
- 文献探索法を中心に発達してきた
- 「評価」も調査研究に有効な文献を探すためという意味合いが強い

従来型の「メディアリテラシー」

- スタンス：弱者に対する啓蒙的リテラシー
- 企業 消費者という対立の構図
- メディア：テレビ、娯楽雑誌、新聞などのマス・メディア、特に商品広告
- 方法：メディアの表現手法を学ぶ
- 科学的根拠にもとづく客観的評価
- 図書館の情報リテラシーと立場が異なる

枠組みをこえて

- これまでの「情報リテラシー」や「メディアリテラシー」の枠を超えた、情報読解能力獲得支援の方法を探る必要がある

『情報の達人』に見る評価の基準

- 1 誰が書いているか
- 2 どこから出版・公開されているか
- 3 客観的にかかわれているか
- 4 いつ作られたものか
- 5 どんな情報をもとにして書かれているか？

- DVD『情報の達人』テキスト第2巻 紀伊國屋書店, 2007, p.22-25

利用教育に「情報の評価」を取り入れる

- 公共図書館で司書がいきなり「メディアリテラシー」の指導をするのはまだ無理がる
- 学校図書館や大学図書館では教科の授業と連携して、批判的読解力習得のための指導を実施することができる
- それ以外に図書館に可能な方法で情報評価を支援することはできないか？

レファレンスの際の個別指導

- メディアの特性の違い
- 立場が異なる著者による意見の違いなど
- 利用者によって指導できるときと、できないときがある

メディアの作り方を学ぶセミナーも有効



浦安市

WELCOME TO OUR WEB SITE
URAYASU CITY

検索
※ サイトの考え方

※ トップページ

※ 催し

※ 施設情報

※ 生活情報

[トップページ](#) > [催し一覧](#) > VTR(ビデオカメラ) 講習会(視聴覚ライブラリーの催し)

催し

VTR(ビデオカメラ) 講習会(視聴覚ライブラリーの催し)

2007年7月1日

問い合わせ先

視聴覚ライブラリー 電話:047-380-6588

av.library@city.urayasu.chiba.jp 〒279-0004 千葉県浦安市猫実一丁目2番1号(中央図書館内)

撮るだけのビデオは卒業して、すてきなビデオ作品をつくるためのカメラワークの基本を学びましょう。

日時 7月21日(土)午前10時30分～午後4時

場所 中央図書館 2階視聴覚室

対象 市内在住・在勤・在学の方、先着20人

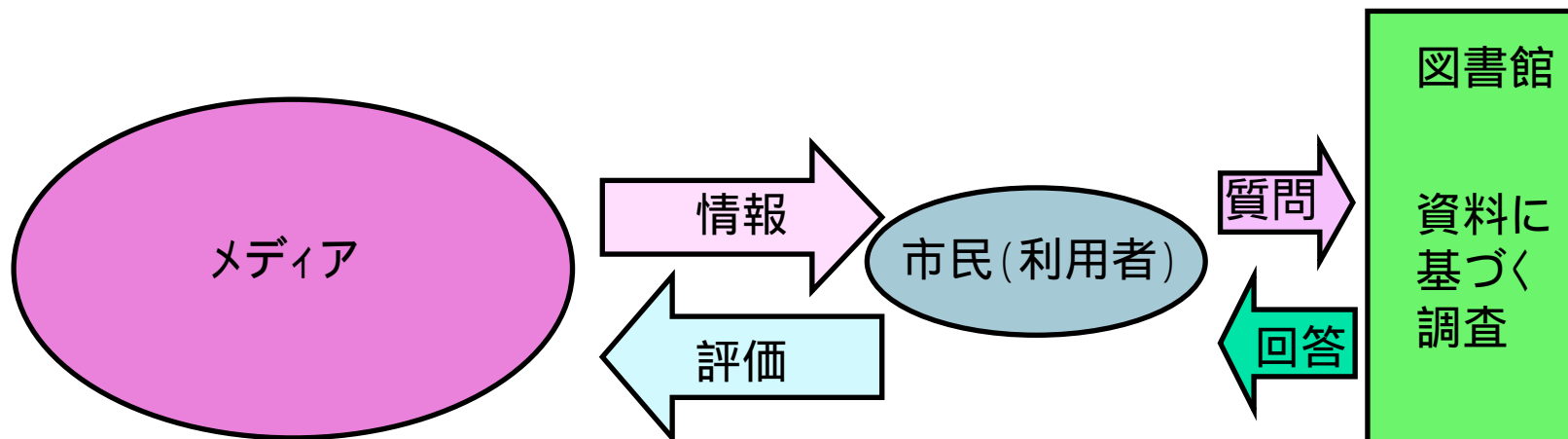
内容 ビデオ撮影の基本的な知識と撮影実習

持ち物 ビデオカメラ・ビデオテープ(録画用)

申込 7月3日(火)午前10時から、電話で、視聴覚ライブラリー 電話:047-

情報読解力の習得を支援する(1)

- 信頼できる文献やデータで検証すること有効
- しかしそれには訓練が必要
- その調査を司書がお手伝いする

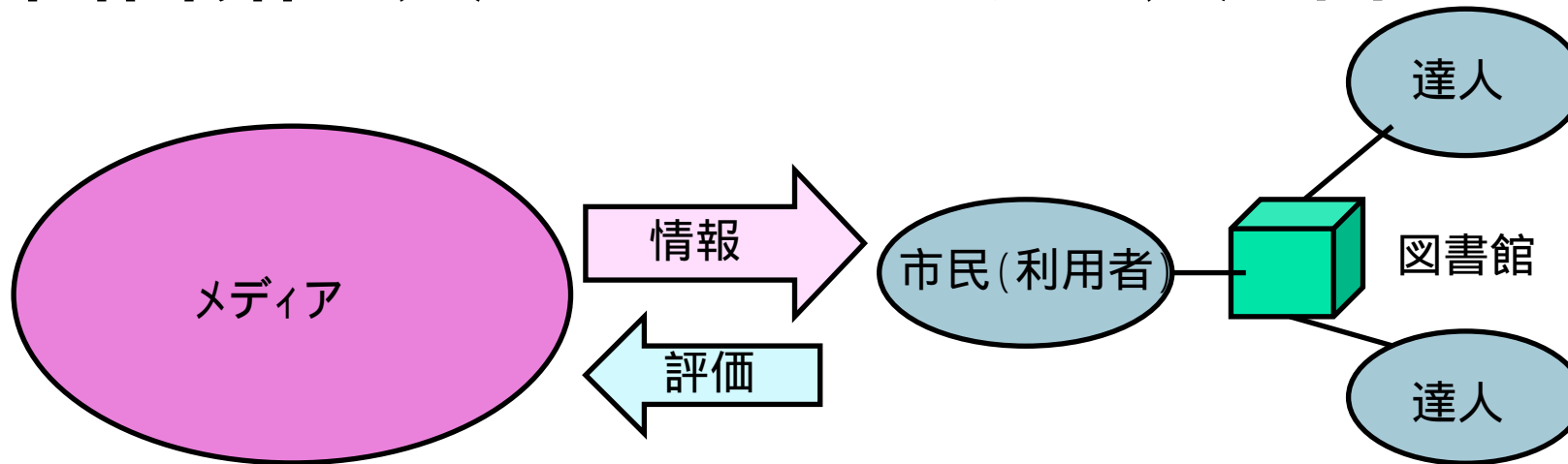


分からないことなら司書に訊け

- 情報の検証を支援するー図書館の資料で判断できるもの
- データや文献の取り扱いに精通していること(リサーチリテラシー)
- メディアの製作過程を理解していること
- 司書は調べ物の達人でなくてはならない

情報読解力の習得を支援する(2)

- 役に立つのは信頼できる人の意見
- 信頼できる人を探すのは大変
- ウェブを利用できない人も多い
- 図書館が人のネットワークの入り口にな



達人のネットワークをつくる

- 図書館が人のネットワークのゲートウェイになる
- 司書で対応できない判断は、信頼できる人の応援を求める
- 人を探しだす能力
- 人的ネットワークを組織する能力
- 司書にはコーディネート能力が求められる

まず司書より始めよ

- 批判的読解を教えるには司書自身が批判的読解力を身につけている必要がある
- 人と情報をむすび、人と人とを結ぶーコミュニケーション能力が必要
- 情報を活用して社会に参加する意識
- 司書自身がまず「思考停止状態」からの脱却をはからなくてはならない

司書に求められる3つのC

- 1、批判的思考力 **CRITICAL**
- **READING**
- 2、コミュニケーション(表現と理解)
- **COMMUNICATION**
- 3、コラボレーション(情報の共有と共働)
- **COLLABORATION**

しかし批判的に思考することは難しい

- 他人との対立を避け、協調していたいという傾向
- 批判的に考える訓練ができていない(従順をよしとする教育)
- 消費者意識、主権者意識が弱い(主体性が確立できていない)
- 権威や有名人に弱い(長いものには巻かれる)
- 面白くない真実より楽しい嘘を選ぶ

そこで魔法のひとつ

(特別公開！)

おかしいと感じたらこう言おう

- なんだか納得できないな
- なんでやねん！
- これは疑わしいぞ
- ほんまかいな？
- 批判的思考は「つっこみ」からはじまる

なぜ「つつこみ」に注目するか？

- 楽しくないリテラシーには人はついてこない
- 相対的視点を身につけるには頭の柔軟が必要
- 弱者が権威に立ち向かうにはユーモアが必要
- 大阪の人は <オレオレ詐欺> に引っかかりにくい

「つっこみ力」という考え方もある

- 「愛」と「勇気」と「笑い」で権威を批判する
- 世の中をおもしろくする
- 民主主義国家とは、正しい国のことではなく、おもしろい国のことである

マッツァリーノ, パオロ
『つっこみ力』筑摩書房,
2007

司書に求められる3つの「つ」

- つっこみ

CRITICAL READING

- つながり

COMMUNICATION

- つくりだす

COLLABORATION



では、ごいっしょに

- なんでやねん？
- ほんまかいな？

楽しい「情報の評価」をめざしましょう

本日は特別に情報読解力養成しおり
をプレゼント！

参考文献

- 菅谷明子『メディア・リテラシー：世界の現場から』岩波書店，2001（岩波新書）
- 鈴木みどり編『メディア・リテラシーを学ぶ人のために』世界思想社，1997
- 竹内薫『99.9%は仮説：思いこみで判断しないための考え方』光文社，20068（光文社新書）
- 谷岡一郎『データはウソをつく：科学的な社会調査の方法』筑摩書房，2007（ちくまリマール新書）
- 東京大学情報学環メルプロジェクト、日本民間放送連盟編『メディアリテラシーの工具箱：テレビを見る・つくる・読む』東京大学出版会，2005
- 野末俊比古『情報の達人第2巻：ゼミ発表をしよう！テーマ選びからプレゼンテーションまで・テキスト』紀伊國屋書店、2007
- マツァリーノ、パオロ『つっこみ力』筑摩書房，2007（ちくま新書）
- 水越敏行編著『メディアリテラシーを育てる（21世紀型授業づくり13）』明治図書，2000
- 森田秀嗣「メディアと批判的にかかわることを教える教育」『メディアリテラシーを育てる』明治図書，2000
- 山内祐平『デジタル社会のリテラシー』岩波書店，2003
- 岡田大輔「ときには別の視点で」『学校図書館部会報』No.25，2007.3.17，日本図書館協会学校図書館部会

参考文献(2)

- 近藤瑠漫、谷崎晃編著『ネット右翼とサブカル民主主義』三一書房,2007
- 尾下千秋『変わる出版流通と図書館』日本エディタースクール出版部,1998
- 渡辺武達『メディア・リテラシー』ダイヤモンド社,1997